

JIA 第91回アーバントリップ見学会のご報告

実施日: 2019年10月9日(水)

テーマ: 「虎ノ門-赤坂を歩く」-スモールオフィスから大型再開発オフィスまで

見学先: 「赤坂インターシティ AIR」

「虎ノ門ヒルズ」

「荒川ビル」

「赤坂センタービル」



「赤坂インターシティ AIR」



「荒川ビル」



「赤坂センタービル」

今回のアーバントリップ見学会は「虎ノ門-赤坂を歩く」スモールオフィスから大型再開発オフィスまでと題し、新虎通りから赤坂・虎ノ門緑道、青山通りにある大規模な開発からスモールオフィスまで、さまざまなタイプのオフィスを見学します。当日は秋晴れの中、楽しい見学会となりました。

■赤坂インターシティ AIR

最初の見学先は溜池山王駅に近接する赤坂・虎ノ門緑道に面した赤坂インターシティ AIR です。日本設計の真崎さん・山崎さん・三好さんにこの計画の概要を説明して頂きました。

この建物の最大の特徴は大きな緑地です。今回のような不整形な敷地でも、整形な建物を最も効率的な場所に配置することが一般的だが、この計画では容積率の割り増しに必要な緑地を最大にするために、その隣接するビルや大使館北側街区との見合いや日照、遠近からの景観的配慮から、六本木通りへ可能な限り寄せて計画した。そして、超高層を不整形な敷地形状になじませて、様々な条件に順応させることで最適解を導いたとの説明がありました。

変化に富んだ高層棟と大きくとられた緑地空間はとても魅力的な空間でした。そこに低層のおしゃれなレストランが佇んでいます。

ランドスケープ担当の山崎さんからは、竣工後すぐに完成したランドスケープを作ることが建築主からの与条件だったそうです。

そして、選定した樹木は通常は使用しないような不整形な樹木をあえて採用。自動灌水ではなく、人工地盤面にたまった雨水を、樹木自らが根を張って水を吸い上げるという考え方をとり、より自然に近い森を目指していました。

■虎ノ門ヒルズ

ここから 2 班に分かれての見学となりました。我々の2件目の見学先は虎ノ門ヒルズです。赤坂インターシティ AIR に引き継ぎ、日本設計の山崎さんに説明して頂きました。

斜行するマッকারサー通りを覆う傾斜した人工地盤がランドスケープの基盤となっていました。荷重条件が厳しい人工地盤上にあつて、軽量材を組み合わせながら自然土の活用範囲を広げ、森の景色が広がる事を目指したとのこと。

また、JHEP 認証最高ランク(AAA)を取得しており、生物多様性に配慮していました。今まであまり見たことがない樹種も多く、豊かな緑化空間でした。

■荒川ビル

3 つ目の見学先は荒川ビルです。最初に見た大型オフィスとはうって変わって、800 m²程度のスモールビルディングです。

東京大学の谷口さん、日建設計の茅原さん、早田さんに、計画の概要を説明して頂きました。

床面積を最大化したうえで、コアを切り取ると結果的に不整形な床が残され使い勝手が悪い空間となってしまう。そこで避難階段をファサード側 2 面に分散配置させることにより、内部空間を矩形にし、有効な床面積を最大にしたとの事。

特徴的な外部階段が外周部に取り巻くように配置されていて、アクティビティある、とても楽しい建物でした。

■赤坂センタービル

最後の見学先は赤坂センタービルです。日建設計の佐藤さん、千本さんに説明して頂きました。

青山通り面して建っているこのビルは、アウトフレームと深い庇を採用した端正なデザインのオフィスビルです。豊川稲荷にも面しており、その眺望を最大限に生かそうとしたとのこと。スパンも赤坂インターシティ AIR と同じ 10.8m です。内部から見ると庇はルーバー状になっていて、なるほどと思いました。

繊細なディテールと力強いディテールがうまく絡み合った素晴らしい建物でありました。

今回の見学会はとてもバラエティーにとんだ素晴らしい見学会で、とても勉強になりました。

記：(株)日本設計 尾形 光男